

学校教育目標

主体的に取り組む生徒の育成
対話を通し他と協働する生徒の育成

目指す生徒像

自分自身で各種教育活動で目標を持ち、その達成のための課題を自分自身で考え、取り組み、振り返り次の活動に活かしていく生徒

目指す職員像

他の教職員と協働しながら、生徒が人との関わりを通し、主体的に取り組めるよう支援し続ける職員

協働型学校評価

到達目標

主体的に物事に取り組もうとする生徒の育成

重点目標

- 学校や家庭・地域の中で自ら進んで挨拶や受け答えのできる生徒の割合を90%以上
- 自ら学習に取り組む生徒の割合を70%以上

学校では

- 生徒会や学年委員会等の生徒の組織への働きかけを行い、積極的な挨拶の定着を目指す。
- 外部への広報を行い、地域一体となって積極的な挨拶を推進する。
- 継続的な短期学習の繰り返しにより、主体的な学習への取組を醸成する。

家庭では

- 保護者自身が挨拶を垂範し、生徒の良きモデルとなる。
- PTA主催の挨拶運動に参加し、生徒の挨拶の習慣化を図る。
- 子どもとの対話を通し、子どもの学習や学校生活での取組を支援する。

地域では

- 地域住民が挨拶を垂範し、生徒の良きモデルとなる。
- 町内会行事等において、生徒に地域の一員としての自覚を醸成する。

本年度の重点事項

スローガン

「夢に向かって」

- (1) 他者とのコミュニケーションを大切にし、主体的に取り組む教育活動の推進

全ての教育活動で「自己肯定感」「自己有用感」を高める取組

- (2) 安心・安全な学校づくり

- ・生徒相互の人間関係づくりと、生徒と教職員の信頼関係づくり
- ・親和的な集団づくりの推進
- ・自主的に主体的な集団づくりの推進
- ・生徒会活動や各種行事への積極的な取組の推進
- ・積極的なボランティア活動
- ・「目標→課題→実践→承認→振り返り」のサイクルを意図的に取り入れた教育活動の実践

- (3) 「たくましく」「しなやかで」「自立した」生徒の育成

- ・積極的なあいさつと他者としっかりと意思疎通できる生徒と教職員
- ・生命を大切にできる心と思いやりの心を育む教育の充実
- ・いじめ（特に「無自覚ないじめ」）の理解促進
- ・いじめの早期発見と見通しある丁寧な支援
- ・生徒の「居場所づくり」
- ・組織的な対応・指導の徹底

- (4) 目標に向かい根気よく取り組む学習支援

- ・継続的な短期学習の定着
- ・対話的な活動を取り入れた授業実践
- ・ICTを活用した授業実践
- ・生徒一人一人に応じた（教室外を含む）学習支援
- ・家庭との連携や働きかけの工夫

- (5) 主体的に取り組む教職員

- ・コンプライアンスの意識を常に高く持った教職員
- ・AIを初めとする積極的なICT研修
- ・防災教育の継続及び充実
- ＜働き方改革＞
- ・1日10分間の就業短縮
- ・勤務外生活の充実
- ・積極的な年休取得
- ・夢タイム実施に伴う定時退勤

- (6) 保護者・地域との関わり

- ・HP、まなびポケット、紙媒体そして各種会議への参加による広報活動
- ・保護者との日常的な情報共有及び連携
- ・地域との連携
- ・地区行事への生徒参加促進